

標準的なサイズで1尾200円台で売られることが多く、例年のほぼ倍の水準。

標準的なサイズで1尾200円台で売られることが多く、例年のほぼ倍の水準。



川魚増え 堀が本

ている。全高長は7月にも不安解消を求める要望をしていたが、十分な対応がな

8月末現在 県は10日、東京電力福島第1原発事故や東日本大震災の影響で福島県などから

ストツツ 受け子の 与板署管内(崎町)の70代0万円をだまて、同署と秋

呼吸不全進む難病に光明

薬物治療の効果証明

新大病院・中田教授ら 承認目指す

新潟大学医歯学総合病院に、呼吸不全が進行する指臨床研究推進センター(新潟市中央区)の中田光教授らのグループが10日まで



記者会見する新潟大学医歯学総合病院臨床研究推進センターの中田光教授(右から2人目)ら。厚生労働省

に、呼吸不全が進行する指臨床研究推進センター(新潟市中央区)の中田光教授らのグループが10日まで

健康な肺は、免疫細胞の一種「マクロファージ」が肺胞内の古くなった粘液を掃除している。しかし、患者の体内では自己抗体がマクロファージの活動に必要なタンパク「GM-CSF」の働きを悪くしてしまい、粘液の掃除が滞ることなどがグループのこれまでの研究で分かっていった。

現在の治療法は全身麻酔をした上で肺を生理食塩水で洗うのが一般的で、入院が必要だった。発表した薬物治療は入院する必要がなく、患者の負担が大幅に軽減される。自宅で吸

入器を使って治療ができ、合併症のリスクも少ないという。治療は新大など全国12の病院が協力して2016年9月〜17年11月に実施。マ

のみ承認されていると説明。他の感染症の治療にも効果が期待できるとして「製薬企業を募集し、一絡に薬事承認を目指したい」と語った。

ハンセン病隔離政策により患者の家族も差別を受けたとして国を訴えた訴訟で、国の責任を明確に認める熊本地裁判決の確定を受けたシンポジウムが16日、新潟市中央区で開かれる。新潟市で長く暮らした原告の原田信子さん(75)岡山市での体験を基に家族の差別問題を考える。

この難病は、肺の内側を覆う粘液が肺胞や気管支

研究者は「家族訴訟が私たちに問いかけること」と題し、県民有志の「ハンセン病回復者と故郷・新潟を結ぶ会」などが主催。原田さんは患者だった父が隔離された後、学校でいじめを受けるなど、厳しい差

別を遭った。シンポジウムのメッセージが紹介。ハンセン病問題に詳しい大の藤野豊教授や、道夫教授も講演する。結ぶ会代表の酢山は「家族も被害を受

十分に知られていない。いまま差別はハンセン病問題への理にしたい」と話しては新潟市総合福祉会千代1)で午後1時代500円。問い合ん、090(4922

ハンセン病、差別考えて

16日、新潟でシンポ

別を遭った。シンポジウムのメッセージが紹介。ハンセン病問題に詳しい大の藤野豊教授や、道夫教授も講演する。結ぶ会代表の酢山は「家族も被害を受

回復順調、美智子さま退院

上皇后美智子さま＝写真＝は10、乳がんの摘出手術のために入院していた東大病院(東京都文京区)を院された。8日の手術後、少しずつ事が取れるようになったほか、病室を出て歩けるようになったこと



ももあり、医師が順調に回復していると判断した。

美智子さまは10日午後2時すぎ、病院の入り口で病院長と執刀医らに「お世話になりました」と声掛け、深く頭を下げた。その後、に乗り込み、住まいの皇居・吹上洞御所に戻った。天皇、皇后両陛下もお見舞いに訪れた。

。ありがとうございます」と声掛け、深く頭を下げた。その後、に乗り込み、住まいの皇居・吹上洞御所に戻った。天皇、皇后両陛下もお見舞いに訪れた。

紀子さま、きょう53歳

秋篠宮妃紀子さまは11日、53歳の誕生日を迎えられた。宮内記者会の問への文書回答で、小室圭さんと婚約が延期となっている長女眞子まについて「さまざまな思いを抱いていると思う。このような状況で、女の気持ちを推測するなどして現や今後について伝えることは控えい」とつぶった。

2人を巡っては、小室さんの母と婚約者との金銭トラブルが報じら、宮内庁は2018年2月に「準備をう時間的余裕がない」として結婚連行事の20年までの延期を発表している。

佐賀、油流出の除去作業終了

8月に九州北部を襲った記録的大で鉄工所から油が流出した佐賀県町町で10日、緊急対策としての除去作業が終わった。この日は国土交通省や県、自衛隊などから約660人参加して除去作業をし、最終確認した。ただ、水路や道路などに油や油じみが一部残っており、県などは今後も監視を続ける。

山口祥義知事は、報道陣に「多くの人手を使う対策は一区切りした。先が見えなかったが、(作業終りに)たどり着くことができた」と述べた。

関東・東北豪雨4年で追悼

2015年9月の関東・東北豪雨で、茨城県常総市の鬼怒川堤防が決壊して4年となった10日、市が追悼行事を開き、神達岳志市長は「災害時の逃げ遅れをゼロにするため、防災士の育成や地域の連携をさらに強化したい」と述べた。

豪雨では、宮城、茨城、栃木の3